

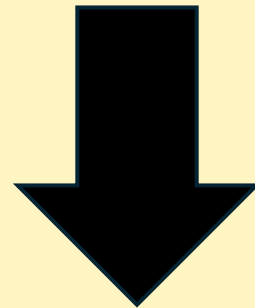
若者の政治参加

立命館大学 政策科学部 1 回生 鳥本有里

テーマ設定の背景

高校の最後にやった英語でディベートをする授業

大学でいわれた「**あなた達には危機感がないよね**」という言葉



大人にならないといけない・自分で考えられる人になりたい

理想状態

政治について話すことがタブーとされない社会

現状の困りごと

周りの目が気になるせいで政治の話をすることに恐怖感や抵抗感を持っている

宇治市内の高校を中心に先生 2人 生徒 14人にヒアリング

仮説：学校教育における対話の場が少ないのではないか

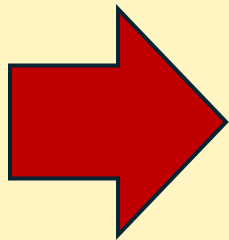
立命館宇治高校
菟道高校
東宇治高校
京都すばる高校
立命館高校の卒業生

- ・意見が発信できる環境は整っているか
- ・これまでにどんな政治教育があったか
- ・信頼できる情報は何か

N = 1

宇治キャンに参加している菟道高校の三年生

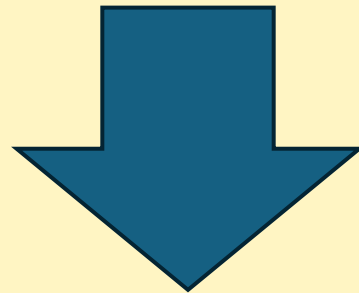
- ★主権者として政治参加をしたい
- ★投票に行くことは当たり前だと思っている
- ☆周りの目が気になって生きづらくなっている
- ☆ステレオタイプの人生観に違和感
- ☆平穏な学校生活を送るためにも争いごとをつくりたくない



学校教育の不十分さや社会に抱くモヤモヤを最も感じた
理想と現実のギャップに対する悩みが共感できた

若者の政治参加について調査する中で…

自己開示の難しさ
意見に自信を持ってない



恐怖感・抵抗感

N=1：菟道3人組

理想状態

学校生活の中で友達と普通に政治の話をしたい

現状

周りの目が気になって政治の話をすることに恐怖感や抵抗感を持っている



文化的課題

政治の話がタブー視されている

教育的課題

学校教育が知識中心で実践が不足
政治や社会課題を「自分ごと化」できない

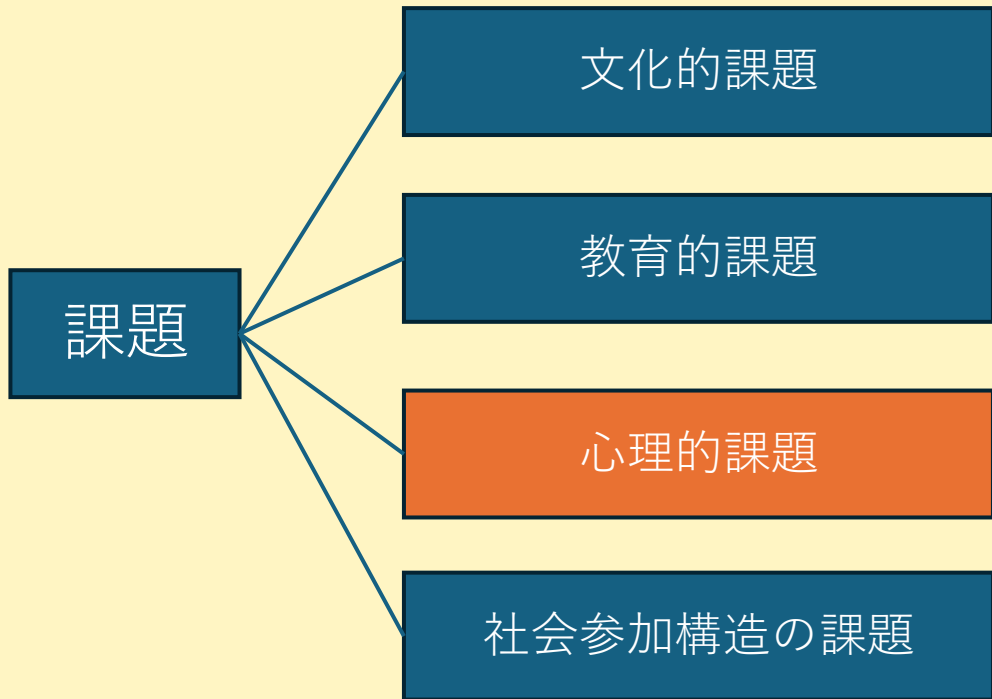
心理的課題

周囲の目を気にして発言を避けてしまう
自分の意見に自信が持てない
自己開示に恐怖感・抵抗感がある

社会参加構造の課題

投票や参加が「特別な行為」とされている
一票の重みを実感しにくい

課題



検証

9/14(日)13:30～16:30@宇治市産業会館 3階茶室

菟道高校の3年生3人 & 立命館宇治高校の3年生2人とのワークショップ

- 1部 夢を語るワーク(自己開示)
- 2部 選択的夫婦別姓について議論
事後アンケートの実施

★検証目的★

自己開示をした状態であれば
政治的な議論の場であっても
抵抗感や恐怖感なく発言できる
のではないかと



検証結果

	検証目的,内容	良かった点	反省点
第一部（心理面） 夢を語るワーク	<ul style="list-style-type: none">・自己開示をすることによって、<u>参加者の心理的安全性を確保するため</u>・普段はあまり話すことのない夢や目標について一人ずつ話し相互に質問をしあった	<ul style="list-style-type: none">・緊張感を緩和できた・自分の意見が受け入れられたと感じて貰えた・学校での議論の場よりも話しやすかったとの声	<ul style="list-style-type: none">・お互いの夢について質問をしあうことが少し難しかった
第二部（事象面） 選択的夫婦別姓に関する議論	<ul style="list-style-type: none">・自己開示をした状態であれば、政治的な議論の場での発言に対する恐怖感や抵抗感がなくせるのかどうかを確かめるため・議題についていくつか争点をあげ、自由に意見を出し合った	<ul style="list-style-type: none">・幅広いな視点から議題について考察できた・意見の対立が起こらなかった・一つのテーマについて深く議論する経験はこれまでなかったとの声	<ul style="list-style-type: none">・議論の進め方についての準備が不十分だった・議論の流れが議題からそれてしまった時に上手く戻せなかった・前提知識を揃えるべきだった

今後の展望

対話をすることで自分の意見を整理していくことは大切だと考えている

→しかし結局は他人同士
自己開示がなされているコミュニティは限られてくる

投票率の向上につなげていくことの難しさ

FBが欲しい点

- 「対話」という手段を用いて政治参加を促進させる活動をしている人を知っていたら教えて欲しいです
- 自己開示と政治参加の距離を近づけていくためにはどうすればよいか